

「ずっと地球と生きる」 学校プロジェクト 今年度最初の授業を実施

日本ユネスコ協会連盟は、読売新聞社との共催で、「国連持続可能な教育のための10年=UNDESD」の理念に賛同し、昨年より「ずっと地球と生きる 学校プロジェクト」を開始しました。本プロジェクトは、学校、企業、メディア、NGO（地域ユネスコ協会）をつないで、小学校の「総合的な学習の時間」へ出前授業（講師派遣）を中心に行っているもので、子どもたちに

現在、地球規模で起きている課題を学んでもらう
人にも地球にも望ましい発展のあり方を考えてもらう
未来に向け、出来ることから行動してもらう

という願いから実施しています。

6月22日、29日には、今年度の1回目の展開として、大田区立久原小学校（東京）で「水」をテーマに実施いたしました。子どもたちは、世界で安全な水が飲める人数が「約5人に1人」であることなどを知り、驚きの声を上げていました。

この授業の詳細は、7月20日前後に、読売新聞および学校プロジェクト専用Webにて報告される予定です。

「国連持続可能な開発のための教育の10年」ならびに「ずっと地球と生きる 学校プロジェクト」の詳細は
こちら

<http://www.unesco.jp/contents/10/education.html>